

# 日本歴史学分野の学術論文 ： CiNii収録状況 Academic papers of the Japanese history field indexed in CiNii

後藤 宣子\*

*Nobuko GOTO*

日本での人文・社会科学分野を対象とした資料・論文情報の電子化は、1990年代以降に進められてきた。近年は、それら電子情報の検索・利用を網羅的かつ容易に行うことが可能になってきている。しかし、科学技術分野に比べ、利用の歴史は浅く、その情報量が利用者にとって必要とされる質や量を確保出来ているかなど、今後課題となるだろう部分は多い。

本稿では、論文情報の流通について、人文科学分野、特に日本歴史分野を対象に、ReaD<sup>1)</sup> 記載論文情報をもとにCiNii<sup>2)</sup>での収録状況の分析を行った。結果、CiNiiは、日本歴史分野でのReaD記載論文情報の約6割を収録しているが(2008年3月現在)、未収録の論文情報として、書籍や一般雑誌などの査読誌以外の情報源の他に、CiNiiの収録対象とされない紀要・年報が存在していることが判明した。

## 1. はじめに

近年、人文・社会科学分野においても資料や論文情報の電子化が進み、利用・検索が網羅的かつ容易になってきている。本稿では、文化情報や地域情報などの資料をデータベース化した資料情報を対象とせず、研究者が歴史資料を用

いて研究・発表された論文の電子情報(以下、論文情報とする)を対象とした分析を行う。

今のところ、日本歴史分野を対象とした論文情報データベースには、研究者によって作成されたものや他領域学問分野データベースの利用が行われているけれども、国文学資料館が提供するような特定学問分野を広く網羅するデータベースは存在しない。歴史学は各分野にまたがる学問でもあるために、完全な歴史学データベースを構築するには、全領域を網羅するデータベースが必要である。本稿では、広い領域での歴史学ではなく、狭い領域での歴史学の代表例として、人文科学の中の一領域である日本歴史を扱う。一方、人文・社会科学分野を収録の対象としている論文情報データベースは、国立情報学研究所(NII)が提供するCiNii(NII論文情報ナビゲータ)が日本を代表する大きさで存在し、現在も質・量ともに成長している。

本稿では、データベース収録情報の充実がデータベース評価の一つになるだろうと仮定し、代表的かつ唯一とも言える日本歴史分野を網羅したデータベースであるCiNiiでの論文情報収録状況を調査する。日本歴史分野研究者の投稿状況はReaD記載論文情報を基本データとする。

\* 愛知淑徳大学大学院文学研究科図書館情報学専攻博士後期課程

Graduate School of Library and Information Science, Aichi Shukutoku University  
JOURNAL OF LIBRARY AND INFORMATION SCIENCE. Vol. 22, p. 49-55 (2008)

## 2. 調査

### 2.1 調査方法

ReaDに記載された「日本史」分野研究者の論文情報を基本データとして、CiNiiでの収録状況について、以下の点の調査・比較を行った。

1. ReaD研究者情報「研究業績(論文・解説)」記載論文情報の傾向を分析
2. ReaD記載論文が、CiNiiに収録されているか
3. ReaD記載論文収録誌が、CiNiiでどのように収録されているか

今回の調査では、調査時点(2008年3月)、ReaD研究者情報に所属が明らかである教授・助教授・準教授、「研究業績(論文・解説)」の記載がある研究者から抽出し、「日本史」110人(母集団の約1割)を調査対象者とした。調査対象となった論文数は、1539件である。比較するために、「日本文学」分野准教授の約1割である論分数577件も調査した。

### 2.2 調査対象者

ReaDは科学技術振興機構(JST)が提供するデータベースであり、国内の大学・公的研究機関等に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を収集・提供している。研究者について20万人の情報があり、研究者自身によって記述された研究者情報(主要論文・著作一覧を含む)が記載されている。ただし、ReaDは研究者の任意による記入のため、研究者すべての記入はなく、毎年の情報更新を義務付けていないために論文情報記入の漏れもある。そのため、厳密には人文科学研究者を対象とする研究に適さないと言えるかもしれない。しかし、情報機器をあまり使用しないと言われてきた人文科学研究者でも、ReaDに記載している研究者であれば、CiNiiなどのデータベースを使用する・される可能性も高いと仮定し、調査を行うことにした。

ReaD研究者情報「研究業績(論文・解説)」

記載論文を抽出するとき、以下のような規定を設けた。

- a. 所属機関名不明者は除外する。
- b. 教授および准(助)教授に属するものだけに  
する。
- c. 記載論文数が非常に多数(40以上)は除外する。
- d. 上記を満たす研究者をランダムに抽出する。

また、現在も活動していると仮定できる研究者であること、ReaDに記載した論文は研究者自身が自身を代表する論文であると認識した論文を抽出の前提条件とした。

本調査で調査対象となった「日本史」研究者は、時代区分を広く網羅(古代～現在)し、民俗・民族・宗教・地理・外交・考古など論文タイトルからの判断により、人文科学内での幅広い分野を研究対象としていたことが判った。

### 2.3 CiNii: 現在の動向

CiNiiはNIIが提供する文献検索システムである。NIIの電子図書館サービス、国立国会図書館の雑誌記事索引データベース、各大学・協会が発行する紀要などを対象とし、2008年12月14日現在、収録数約1205万件であり、日本を代表する論文データベースである。これらのデータは、学術関係者の利用のみを対象にせず、一般にも無料で検索および制限付きの全文閲覧が可能となっている(2008年現在)。

2008年10月には機関リポジトリ<sup>3)</sup>、11月にはJ-STAGE<sup>4)</sup>、Journal@rchive<sup>5)</sup>との連携を行い、論文情報のみではなく、CiNiiから直接閲覧できる論文も増加している。今後も質・量ともに充実していくことが期待される。

機関リポジトリは次世代学術コンテンツ情報基盤構築を目的とし、主に大学で生産された学術情報の収集・保存・組織化・発信を進めている。平成19年度(2007年)は、公募による70大学が参加し、NIIが連携システムを提供している。J-STAGE、Journal@rchiveはJSTが中心となって主に科学技術分野を収録対象としたデー

データベースである。Journal@rchiveは181誌(2008年現在)、人文社会科学分野も含んでいる(「日本考古学」など)。本稿では、2008年3月調査結果をもとに分析を行っているが、現在も進められているこれら先進的な学術情報の流通も視野に入れ、本格的運用が進み始めたのちに調査・分析を行うことが必要となるだろう。

CiNii情報コンテンツ課の調査<sup>6)</sup>によれば、平成19年度(2007年)CiNii利用者の30%は人文科学分野である。この詳細については平成20年度(2008年)調査結果を待ちたい。

### 3. 調査結果

#### 3.1 ReaD研究者情報記載論文の傾向

ReaDに記載された論文数の変遷は図1のようになった。現在活動している研究者の論文生産は、1995～2005年に最も多く、2006年以降急激に減少している。減少した理由はさまざまに推測できるが、本稿の調査(2008.3)では、2000年前後以降に情報の更新を行っていない研究者の存在、人文学分野では出版年次と実際の出版年の間に時差が生じていることを指摘する。

ReaD記載論文の雑誌の種類には、「学術雑誌」「大学・研究所等紀要」「その他」の種別がある。図2から、論文の投稿先がおおよそ推測できる。

教授・准(助)教授別での分布もほぼ同様の結果であったことから、「日本史」分野では、年齢などに関係なく「学術雑誌」「大学・研究所等紀要」を論文の主な投稿先としている。

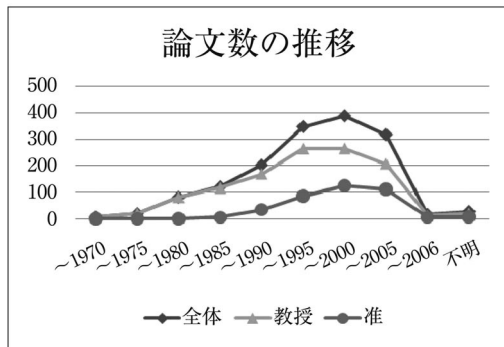
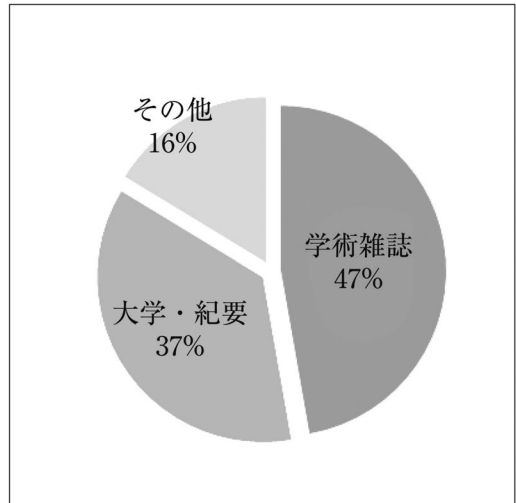


図1 ReaD記載論文数の変遷(区分：日本史分野)



学術雑誌727件 大学紀要561件  
その他251件 計1539件

図2 投稿雑誌の傾向：ReaD  
(区分：日本史 教授・准教授)

「学術雑誌」「大学・研究所等紀要」に区分された論文をさらに見ていくと、同じ雑誌であっても、「学術雑誌」「大学・研究所等紀要」両方に出現する雑誌、紀要であっても学術雑誌と記載された雑誌もあり、「学術雑誌」と「大学・研究所等紀要」の間は曖昧に認識されているようである。もともと大学を母体して成立した学会が、現在は広い学会員で構成している学会もあり(『史学雑誌』『史林』『九州史学』など)、「学術雑誌」と「大学・研究所等紀要」の厳密な定義付けは難しい。

なお、「日本史」分野で、ReaDに多く出現した雑誌は、『日本史研究』(59件)『日本歴史』(53件)『歴史学研究』(33件)『史学雑誌』(33件)(すべて「学術雑誌」に区分された雑誌)であった。

#### 3.2 CiNiiでの収録状況

ReaD記載論文が、CiNiiに収録されているかを調査した。比較対象として「日本文学」研究者についても同様の方法で調査を行った。

結果、CiNiiでの収録件数は894件(58%)、未収録645件(42%)、日本文学(准教授のみ)では、577件中、収録377件(65.3%)、未収録200件(34.6%)であった。

### a) 雑誌区分別のCiNii収録状況

雑誌区分別の収録は、学術雑誌477件(65.6%)、大学紀要389件(69.3%)、その他28件(11.1%)、全体894件(58%)であった(図3)。

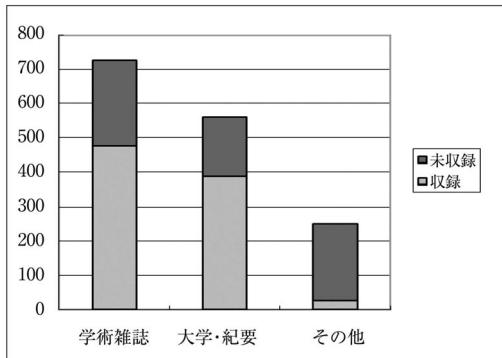


図3 雑誌区分別CiNii収録状況

「日本史」分野で、ReaDに多く出現した雑誌は「学術雑誌」『日本史研究』『日本歴史』『歴史学研究』『史学雑誌』に投稿されていた論文であり、ほぼCiNiiに収録されていた。これらの雑誌は従来から主要誌として認識されている雑誌である。

「学術雑誌」に区分された論文は、1980年代の論文はほぼCiNiiに収録されているが、1990年代前半に収録状況が低くなり、以降、再び収録状況が高くなっている(2008.3現在)。

「学術雑誌」で未収録の特徴としては、『九州史学』『史学雑誌』などかつて大学紀要であった雑誌、地方史編纂のために編集された雑誌、数年で廃刊となった雑誌などが挙げられる。

日本歴史全般ではなく、各主題を専門とする雑誌も1990年代の収録状況が低い。「日本史」分野でのCiNii収録状況は、総合誌的な主要誌はほぼ収録されているが、専門的な分野では

「学術雑誌」と認識された雑誌でも良好とはいえない。

「大学・研究所等紀要」は各機関の協力によっている。その中には、発行者がすでに存在しない雑誌も存在するかもしれない。この問題については、国立情報学研究所が進めている学術雑誌公開支援事業<sup>7)</sup>、機関リポジトリなどのさらなる展開を期待したい。

「大学・研究所等紀要」で未収録であった論文は、短期大学など規模の小さな機関では雑誌そのものが収録されておらず、大学付属研究所紀要や博物館紀要などは雑誌は収録されているものの2000年以前では収録されていない雑誌が多くみられた。

「その他」に区分された論文の約半数は、「論文集」として出版された書籍のうち的一篇として、「全集」の「月報」や「解説」など、書籍中に収録されていた。このほかには、博物館相当施設、埋蔵文化財発掘速報、各県や市町村史といった大学・研究機関以外で発行された紀要などの研究誌で発表された論文が多くを占めていた。ただし、博物館などの機関が発行する雑誌が「大学・研究所等紀要」に区分されている例もあり、「大学・研究所等紀要」と「その他」の定義も厳密ではない。これら論文は、CiNiiに収録されることもあるが、その雑誌の収録状況は散発的である。

「学術雑誌」「その他」に共通する点としては、一般誌には含まれないため、国立国会図書館の雑誌記事索引目録の対象誌とならない一方、専門誌としてもCiNiiに収録されない雑誌が存在した。典型例としては、博物館相当施設などの研究紀要である。国立国会図書館の雑誌記事索引などの収録方針から外れた専門的な雑誌で、学会などではない場合にCiNiiでの未収録論文が多かった。従来、グレーペーパーとされてきた記事が論文として扱われることもある。どの程度までを収録対象とすべきか、今後の課題のひとつである。

## b) CiNii収録誌の年代による影響

特に「大学・研究所等の紀要」に相当する論文は、1990年代全体にCiNiiでの収録状況が悪かった。同一雑誌であっても、1980年代は収録されているが、特定時期に収録されていないこともあった。論文タイトル名、著者名から判断すると、1980年代までは、主要論文とされる論文がReaDに記載されたのではないかと推測できる。1980年代は投稿された論文数も少なく、CiNiiでの収録率も高くなっている。1990年代は投稿数が増加し、実際のCiNii収録数も増加しているものの収録率としては低い。一方、雑誌によっては1990年代の論文が特定期間収録されていない例もあり、収録漏れも指摘したい。CiNii参加機関の収録方針など、さまざまな理由が影響しているようである。

2000年以降に論文情報そのものが減少しているが(図1)、これはReaD設立当初からのReaD記載研究者情報を更新していない研究者の存在が減少の理由であった。

## c) 出版別による未収録論文の状況

図4は、ReaDによる区分「学術」「大学・紀要」「その他」とは別に、今回新たに雑誌名などから出版別に「学術」「大学」「短大」「出版」「地方史」「資料館・研究機関」に区分した論文の未収録状況を整理した。

ReaD記載論文情報では、「学術」「大学・紀要」「その他」の認識が研究者によって異なっていたため、新たに雑誌名などから出版元を特定し、区分し直した。特に「大学・紀要」を整理し直し、「学術」は区分「学術雑誌」に多く登録されているもの、「大学」は大学による出版物、「地方史」は主に地方公共団体の発行物(県史・市史などの編纂や遺跡発掘に伴う報告書など)、「資・研」は資料館・博物館・図書館・各種研究機関(地方公共団体、大学内含む)発行物であり、多くは雑誌名に「紀要」を含む。「出版」は単行本として出版されている書籍や

シンポジウムなど突発的に出版された雑誌を分類した。

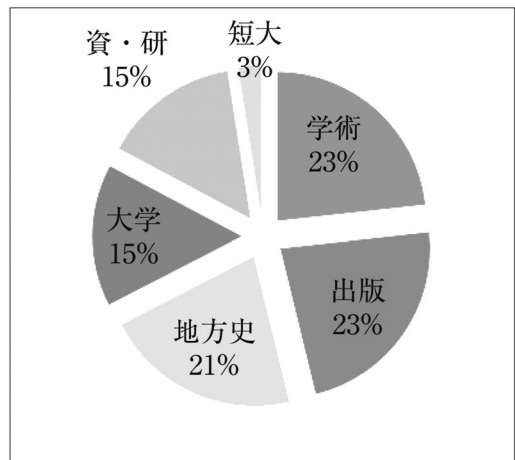


図4 未収録論文の出版別状況

現在、多少の異動はあるものの、CiNii収録対象誌は「学術」「大学」の殆どを占める。「出版」は一部が収録対象とされ得る。反対に、収録の対象となり難い雑誌は「地方史」「資・研」であるが、これらは公共機関の研究団体や大学附属機関が発行するものである。発行機関のCiNiiへの参加も考えられるが、研究者が大学などの機関リポジトリに登録出来得る立場であれば、論文の質の確保とともにCiNii収録率向上の助けとなるだろう。

日本歴史分野でのCiNii収録率を高めるには、

- 1) 現在も収録対象である雑誌の収録充実
- 2) 研究者による機関リポジトリへの登録
- 3) 地方公共団体などが発行する研究雑誌・報告書の取扱、CiNiiへの参加などが考えられる。

## d) 博物館紀要の収録状況

2008年12月初めに、CiNiiでの博物館などの紀要収録状況について検索を行った。これは2008年10月以降に進められている他分野データベースとCiNiiとの連携サービスが今回の調査結果に影響があるかどうかの確認である。結果

としては、2008年3月末収録であった論文は12月現在でも収録されていなかった。

CiNii全体に含まれる博物館が発行する紀要のうち、雑誌タイトルに「博物館」と「紀要」を含む論文は2589件、「博物館」と「県」を含む論文は2629件であった。NACSIS Webcatplusで雑誌タイトルに「博物館」と「県」を含む雑誌は216件存在した。

今回の調査対象とした論文の数が小さいため、10月以降のCiNiiでの他データベースとの連携の恩恵に浴することは出来なかったが、3月には収録されていなかった博物館紀要(調査対象ではない雑誌)を確認することは出来た。今後に期待したい。

#### e) 日本文学分野との比較

「日本文学」分野には、国文学研究資料館がすすめている「国文学論文データベース」が存在する。今回比較として調査した国文学分野の論文情報に関しては、CiNiiに未収録でも「国文学論文データベース」には収録されている論文が多く存在した。CiNiiでの「日本文学」分野論文収録率は65%(準教授)であった。

「日本文学」分野でのCiNii未収録の例としては、大学・短期大学発行の紀要、書籍と専門誌の中間的な内容の雑誌、1990年代での収録漏れなどがあった。未収録の状況は、「日本史」分野とほぼ同じと考えられる。

#### 4. 分析

CiNiiは、「日本史」分野論文の約60%を収録しており、比較として調査した「日本文学」分野は准教授だけの場合65%と「日本史」より若干高い収録率であった。

CiNii未収録論文の傾向としては、

- 1) 1990年代を中心とした収録漏れ
- 2) 書籍と専門誌の中間的な内容の雑誌
- 3) 短期大学・博物館・公共団体発行の紀要などCiNii参加ではない機関の刊行物

が指摘できる。

日本文学分野に関しては、日本文学を専門領域としたデータベースが存在するため、CiNiiのみに頼らない論文情報検索が可能である。

すでに述べたように、日本歴史に関しては、日本歴史全体を専門領域とするデータベースは存在しない。隣接領域分野あるいは専門分野が作成したデータベースが若干あるものの、相互に連携していないため、人力によるデータベース探索・発見が必要となる。この状況は、資料情報データベースも同様であり、資料情報データベースについての横断検索の試みが研究者段階で進められている。CiNiiを利用した網羅的な論文情報データベースの構築がより期待される。

#### 5. まとめ

CiNiiはReaD記載論文情報の約6割しか収録しておらず(1990年代の収録率低)、未収録理由としては、

- 1) 収録対象誌での収録漏れ
- 2) 収録対象外(短大・博物館等の紀要、地方公共団体発行誌など)

が指摘できる。

短期大学紀要に関しては、CiNii参加に参加側がどのように対応するかの問題もあり、博物館などの紀要は、2008年12月現在での収録雑誌は博物館による参加ではなく、JSTが提供するデータベースとの連携によって得られたと考えられる。地方公共団体などによる発行物など、今後どのような参加・収録方針を進んでいくのか気になるところである。

本稿では、「日本史」分野の論文を対象に分析を行った。同時に「日本文学」分野の論文も同様の手続きによって調査を行い、ほぼ同様の結果を得ている。隣接分野である日本史分野研究者が国文学研究資料館データベースを利用することもあるだろう。しかし、国文学研究資料館データベースは「日本史」分野を網羅できていなかった(2008.3現在)。現在の論文情報デー

データベースは、日本歴史分野研究者の利用に十分応えているとは言い難い。

CiNiiでは、その分野で主要とされている学術雑誌であっても全論文を収録出来ておらず、特に1990年代は、論文が収録されていないことが多い。今後の遡及入力の方針の課題となるだろう。さらに、雑誌記事索引データベース、NII-ELSの収録方針など、CiNiiの収録方針と考えられる収録雑誌には、収録方針の狭間に入ると考えられる雑誌も存在した。CiNiiの収集方針上難しい点もあるだろうが、各データベース間を埋める努力が必要となるだろう。

CiNiiを充実させるためには、収録雑誌のタイトル数を増やすこととともに、雑誌内の情報の充実を図ることが必要である。

22)

- 7) 国立情報学研究所 学術雑誌公開支援事業  
<http://www.nii.ac.jp/nels/> (cited 2007-12-10)

1) ReaD

Directory Database of Research and  
Development Activities  
研究開発支援総合ディレクトリ  
<http://read.jst.go.jp/> (cited 2008-12-14)

2) CiNii

NII Scholaly and Academic Information  
Navigator  
<http://ci.nii.ac.jp/> (cited 2008-12-14)

3) 機関リポジトリ

<http://www.nii.ac.jp/irp/> (cited 2008-12-14)

4) J-STAGE

<http://www.jstage.jst.go.jp/> (cited 2008-12-14)

5) Journal@rchive

<http://www.journalarchive.jst.go.jp/>  
(cited 2008-12-14)

6) 国立情報学研究所学術コンテンツ課.

CiNiiのサービスに関するアンケート19年  
度の結果  
[http://ci.nii.ac.jp/cinii/pages/enquete/  
cinii2007/result.html](http://ci.nii.ac.jp/cinii/pages/enquete/cinii2007/result.html) cited 2008-02-